

輝く未来に向かって

本日3月1日（水）は、いわき湯本高校最初の卒業式です。



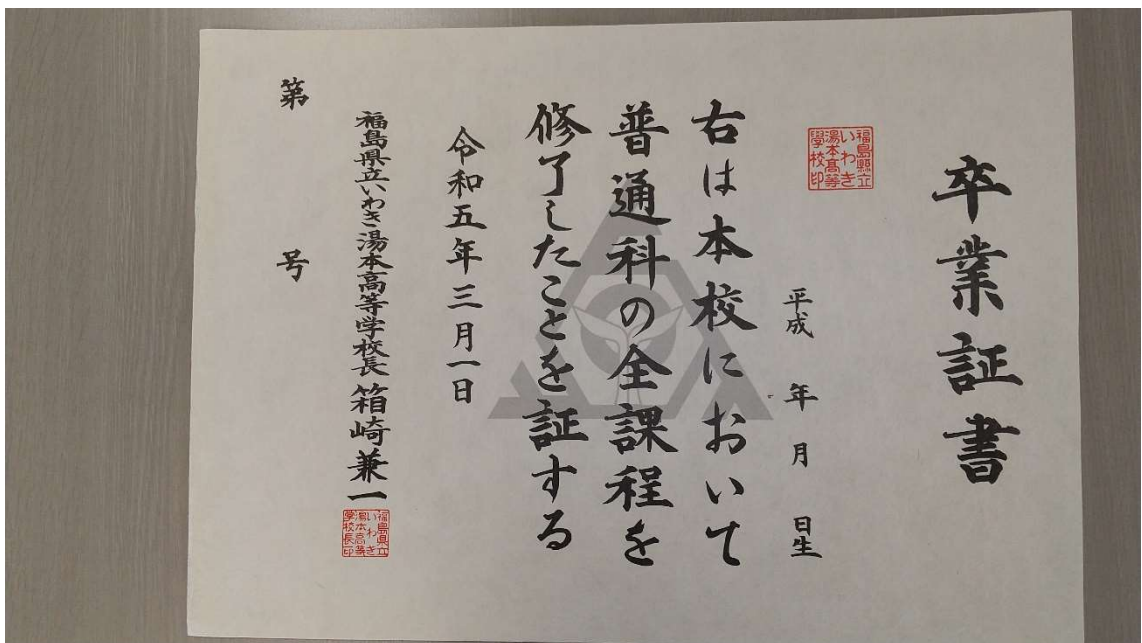
↑ さはこの丘の学び舎には、青空が広がっております。



↑ 会場（体育館）入り口です。



↑ 卒業生担任の先生、ハイ、チーズ！



↑ 遠野和紙の卒業証書です。校章が印刷されています。



↑ 壇上から見ると・・・



↑ 同窓会の皆さまから、たくさんのお花のプレゼント。
ありがとうございます。



↑校旗です。



↑昨日の夕方、野球部の生徒が、卒業式ための駐車場準備のボランティア。
昨日の朝は、通学路の清掃ボランティア。
ありがとうと言ってもらえる生徒！

第1回卒業証書授与式（3月1日（水）） 校長式辞

青春とは人生のある期間ではなく、心の持ちかたを言う。薔薇の面差し、紅の唇、しなやかな手足ではなく、たくましい意思、豊かな想像力、炎える情熱をさす。青春とは人生の深い泉の清新さをいう。

青春という言葉がふさわしい、卒業証書を授与された二百二十二名の皆さん、御卒業おめでとうございます。

皆さんの卒業証書には、校章が印刷されています。これは、湯本高等学校の卒業証書の伝統を引き継いでいます。また、皆さんの卒業証書は遠野和紙でできています。これは、遠野高等学校の卒業証書の伝統を引き継いでいます。

卒業証書に印刷されているいわき湯本高校の校章には、新しい学校の思いが込められています。校章のまん中には、YUMOTOの「Y」があり、この形は羽ばたく羽、若葉の芽吹きをイメージしています。つまり、いわき湯本高校の生徒が輝く未来に向かって羽ばたいて欲しい、成長して欲しいという思いが、校章に込められています。

どうぞ皆さん、湯本高校と遠野高校の良き伝統を引き継いだ、いわき湯本高校という新しい学校の思いが込められた卒業証書を手し、輝くに未来に向かって力強く飛び立ってください。

さはこの丘の学び舎の生徒、教職員はもちろん、湯の岳の気高き姿をともに仰ぎ見る、遠野の学び舎の生徒、教職員も含め、いわき湯本高等学校全体で、皆さんの旅立ちを心から祝福いたします。

保護者の皆様、お子様の御卒業をお喜び申し上げます。まぶしいばかりに成長したお子様を目にし、さまざまなことが思い出され、涙があふれてくるのではないのでしょうか。

地域に愛される学校の卒業生として、県議会、PTA、教育後援会、同窓会、学校評議員の皆様をはじめ、たくさんの方々が皆さんの旅立ちを祝福しております。

この三年間は、皆さんにとっても、学校にとっても特別なものとなりました。伝統ある湯本高等学校から新しいいわき湯本高等学校へ。この二つの高等学校の歴史をつくるのは生徒一人一人の頑張り。湯本高等学校と遠野高等学校の良き伝統・実績や熱い思いを継承し、いわき湯本高等学校という「新しい風」を吹かせたい。

皆さん一人一人が、日頃の授業・勉強を大切に、地域を学びのフィールドとし

た探究学習などに意欲的に取り組み、学力向上に努め、進路実現につなげるとともに、部活動・委員会活動や学校行事などに青春の汗を流し、人間性を磨きあげ、全国大会・東北大会で活躍するなど、よく頑張りました。

その頑張り・奮闘努力、青春の汗と涙が、湯本高等学校といわき湯本高等学校という二つの高等学校の歴史を立派につくりあげるとともに、湯本高等学校と遠野高等学校の良き伝統・実績や熱い思いをしっかりと継承し、「新しい風」をさわやかに吹かせながら、皆さんは今、いわき湯本高等学校最初の卒業生として、旅立ちの時を迎えています。

進学であろうと、就職であろうと、これから皆さんは、社会に飛び立っていきます。社会に出れば、大人として見られ、大人として扱われます。

では、そもそも大人とはなんでしょうか。大人とは、魔法の言葉「ありがとう」と言える・言ってもらえる人です。

「ありがとう」と言えるためには、「謙虚」な気持ち、「感謝」「思いやり」「友愛」の心を持つことが必要です。「ありがとう」と言ってもらえるためには、「挑戦」「努力」「創造」する力が必要です。「ありがとう」と言える・言ってもらえる人が、夢や理想を持った人、「自立」した人です。つまり、大人とは、校訓の「自立」「友愛」「創造」という三つの力を身につけた人です。

この三年間で、「友愛」の心を持ち、「創造」する力を身につけ、「自立」した人になり、輝く未来に向かって飛び立って欲しい。そうなれるように、私たち教職員は全力で応援し、皆さんも一生懸命頑張ってきました。

思うようにならないことがある。うまくいかないこともある。しかし、何とかしようとする。何とか乗り越えようとする。新しい景色を見たいと、毎日を一生懸命生きる。皆さん、よく頑張りました。青春の日々でした。

そうした皆さんを一人一人、きめ細かに、粘り強く、丁寧に指導する。一歩でも前に進むことができるように、一段でも高く上がることができるように、一生懸命応援する。私たち教職員は、保護者の皆様や、地域の皆様をはじめたくさんの方々を力と力を合わせながら、全力で応援してきました。これは愛です。

愛と青春であふれているさはこの丘の学び舎で、皆さんは着実に成長しました。三年前の皆さんではありません。成長した自分に自信と誇りを持ってください。

皆さんは、東日本大震災と原発事故が発生してまもない頃、小学校に入学し、高等学校在学中には、新型コロナウイルス感染症の感染が拡大するなど、さまざまな困難な状況にあっても、くじけることなく、前を向いて自らの未来を切り開

いてきました。

皆さん一人一人が、魔法の言葉「ありがとう」と言える・言ってもらえる大人として、社会で生き抜くことができる、頑張り抜くことができる。私たち教職員すべてが強く信じています。学校から社会へ。子どもから大人へ。社会に出れば大人としていろいろなことがあるでしょうが、遠野和紙の卒業証書を手にも、ここはこの丘の学び舎で学んだことを誇りにして、何事も最後の最後まで、粘れ、頑張れ、あきらめな。

今、皆さんは社会の入り口に立っています。大人の入り口に立っています。ドアの向こうは輝く未来です。さあ、旅立ちの時です。目の前のドアを力強く開け、一歩前へ。一人一人の輝く未来に向かって、頑張れ、いわき湯高生。